

シリーズ4 世界の大学図書館

Williams College (ウィリアムズ・カレッジ)

米国大学図書館の図書館運営と利用者サービス

1793年創立のウィリアムズ・カレッジは、Sawyer Libraryを中央図書館として、Schow Science Library, Archives and Special Collections, Chapin Library of Rare Books, Matt Cole Libraryから構成されている。

スタッフの配置について

Sawyer Library

図書委員は8~9名おり、学生3名、教員3名、教務部長、総務課長、ライブラリアン（日本でいう図書館司書）1、2名の内訳である。図書館職員は夜間勤務スタッフと管理職員の2名を除いてフルタイムである。学生アルバイトを85名雇用しており、それぞれ図書館内の担当部署がある。

アクセスサービス職員とレファレンスの職員を除いて、月曜から金曜の午前8時から午後4時半までの勤務である。アクセスサービス職員はシフトによって、月~土の毎日午前8時~午後11時、日曜日は午前9時~翌午前2時半までをカバーしている。

レファレンスデスクは、4名のレファレンス・ライブラリアンが交代で概ね毎日午後5時まで、その他に2名のライブラリアンが週に数時間補佐する形態を取っている。また、レファレンスデスクにはレファレンス・ライブラリアン1名のほかに学生アルバイトが1名勤務している。

Schow Science Library

ライブラリアンとライブラリーアシスタント、そのほか夜間専門・半日勤務のライブラリーアシスタントが、午前7時45分~午後11時半の間で勤務しているが、長期休暇等には雇用されない。



レギュラーのスタッフの他に約35名の学生アルバイトを雇用している。学生アルバイトは1週間に5~7時間勤務する。学生の時間給は仕事の内容によって8ドルからである。

ファイナンシャル・エイド（学費負担軽減のための金銭的支援プログラム）の対象学生を雇用することにより、大学に対する政府の補助を受けられる。

図書館サービスについて

Sawyer Library

利用者の種別による開館時間の差はない。AVルーム、

学習室、コンピュータールームなどは図書館の開館時間と同じ時間帯で利用可能であるが、これらの部屋にスタッフの配置はなく、利用はカレッジ・コミュニティに限定されている。閉館 20 分前と 5 分前にベルと照明を点滅させることで、利用者への閉館のお知らせとしている。

学外研究者の入館及び所蔵資料の利用の際に提出が求められている書類はない。また、一般利用者としての登録にはウィリアムズタウンの住民であることを証明するための運転免許証などが必要となる。

延滞金はコースリザーブ資料（授業の指定図書）にのみ延滞金が課せられる。返却期限 3 日前にお知らせを受け取り、さらに延滞のお知らせを 2 度受け取ったあとに請求書が送付される。図書館資料を紛失してしまった場合、該当図書の購入にかかる費用及び手数料として 20 ドルが請求される。さらに学生は 2 ドル、そのほかの利用者については 5 ドルの請求書料が加算される。

特徴として学期ごとに学生割り当てられる鍵付きの机があることが挙げられる。



Schow Science Library

開館時間は月～木：午前 8 時～午前 3 時、金・土・日は一部短縮となる。利用者の種別による開館時間の差はないが、貸出に関する規則については、教員、学生、一般利用者などの種別により異なる。また、蔵書の利用については広く開放されており、特に書類の提示などは必要ない。

学生に対して、ラップトップ PC (25 台)、計算機、フラッシュ・ドライブの貸出サービスをカウンターにて行っている。

スタディ・ルームにて、荷物を置いたまま 30 分以上不在にした場合は、強制的に荷物を撤去している。Sawyer Library と同様に鍵付きの机が、Schow Science Library でも学生のために用意されており、各学期の初めにサインアップして予約できるようになっている。机には数に限りがあるため、特に 4 年生には優先権が与えられている。その次に 3 年生、2 年生というように予約を受け付けるが、人気があるため下級生の利用は難しい。利用権を持つ学生が机を利用していない時間帯には、誰でも利用が可能である。

延滞については電子的に処理されており、利用者に対して自動的に督促状が送られる。また、指定図書に対する延滞料及び紛失図書の弁償については、Sawyer Library のそれに準じている。

施設の管理について

Sawyer Library

セキュリティ・オフィサーが安全対策及び図書館の閉館について責任を持って管理している。

Schow Science Library

図書館サービスデスクは、開館時間と同じ時間帯でサービスを行っているため、特別な安全対策を必要としていない。8 つの様々なサイズのスタディ・ルームがあり、すべてファーストカム・ファーストサーブド（先着順）で運営されている。図書館内の飲食は許可されており、館内の飲食スペースの制限もない。



Williams College Library

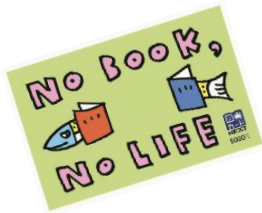
<http://library.williams.edu/>

(西田麻衣子)



7月13日、「ビブリオバトルin 名大祭」を開催しました。事前に予選会

を3回にわたって行い、各回を勝ち抜いた5名のバトルーが、本への思いを熱く語ってくれました。



チャンプ本は、社会福祉学科2年の木内望月さんが紹介した『ライ麦畑でつかまえて』に決定、木内さんには図書カード5000円分が贈呈されました。本戦に出場したバトルーの皆さんから感想をいただきました。

社会福祉学科2年 木内望月

今回、私は人生で初めてビブリオバトルに参加しました。そのため、参加前は本をどのように紹介するのが正解かも分からず不安でした。

今回のビブリオバトルを通じて、本のあらすじや良かったポイントを紹介することが正解ではなく、むしろビブリオバトルに正解はないと分かりました。そのため、参加者の一人一人が全く違う紹介の仕方をしていて面白かったです。私も自分の言葉で好きな本の良さを人に伝えられて楽しかったので、また来年もビブリオバトルに参加したいと思いました。しかし、今回紹介した本よりも人に読んでもらいたいと思う本が今は思いつかないので、次のビブリオバトルまでの一年間でそのような本を見つけていきたいです。



栄養学科1年 細谷美樹

私は、ビブリオバトルというものを知りませんでした。友達と一緒にしようとして誘われて興味を持ち、図書館にあるビブリオバトルの本を読んで初めて知りました。やったことも見たこともないことだったので、とても不安でとても緊張しました。しかし、自分が好きな本を大勢の人に紹介することや、他の出場者の方々の紹介を聞くことは楽しく、いい経験になりました。また、今回参加して、私のプレゼン能力が低いということがよくわかったので、他の出場者の方々の良い所を取り入れて、プレゼン能力を向上させていきたいです。また来年も参加したいです。



看護学科4年 西 瑞穂

今回のビブリオバトルでは、バトルーの皆さんの1冊1冊への思いや感想、そして工夫を凝らしたプレゼンテーションに引き込まれていました。私は今回の参加者で最年長でしたが、その中で後輩の皆さんの熱い思いがビシビシと伝わり、ただただ圧倒されていました。

2年間出場して、「もっと早くこのビブリオバトルに出場していれば良かったな」と少しの後悔が残っています。でも、今年の夏も学祭も本を通して自分自身を見つめ直す機会となりました。素敵な夏の始まりですね(笑)

皆さんも来年からぜひビブリオバトルに出場または参加して、夏を迎えてみませんか？そこには一言では伝えきれない「何か」が待っているかもしれません。

栄養学科 1年 増田わかな



ビブリオバトル自体は高校生の時に授業の一環として参加したことはあったのでルールや雰囲気を知っていました。なので、予選も本戦も緊張は少しありましたが、最後まで楽しむことが出来ました。

今回ビブリオバトルに参加させていただいて、学んだことは二つあります。一つは、プレゼンテーション能力の向上のさせ方です。本戦は一般の方も多く、どんな方でも私の紹介する本の魅力が伝わる表現にしなければいけないので、難しかったです。自分の考えを誰が聞いても分かるようにする工夫をこれからも身につけていきたいと感じました。

二つ目は、本は読む人の数だけの感じ方がある、ということです。他のパドラーの方の発表や質問を聞いていて、自分の中で物事に対する考え方が広がりました。紹介された本は勿論、その人自身の考え方にも興味が湧きました。

最近若者の本離れや、電子書籍の普及によって紙の本を手取る人が少なくなっていると聞きます。今回のビブリオバトルの参加者も少なかったのも驚きました。私自身、大学生になって読書をする時間が少なくなってきました。今回改めて実感した本の魅力を忘れずに、読書をしていこうと思います。そして、その魅力を発信し続けることができる人になりたいです。



社会福祉学科 3年 牧野みゆき

昨年に引き続き2度目の出場となった今年は、惜しくもチャンプ本には選ばれませんでした。自分自身のプレゼンテーション能力を再度試す良い機会になりました。

今回選んだ松尾由美さんの『九月の恋と出会うまで』という本の魅力は精一杯お伝えできたと思います。5分間のプレゼン時間で何を伝え、「読んでみたい」と思ってもらえるかを考えることは難しかったです。しかし、そうすることで本の魅力を再発見しどんどん本が好きになりました。

大勢の前で話すことは緊張もしますが、自分の力を試せるチャンスだと思うのでぜひ多くの方に参加してもらいたいです。



お知らせ

第9回名寄市立大学

「サイエンスカフェ」を開催します。

◆とき：9月26日（木）18:30-

◆ところ：大学5号館学生食堂きらきら

講演：「あずき博士のまめトーク！」

栄養学科・加藤淳教授による道産豆類の「健康機能性」についてのお話です。

※参加料無料

※お菓子・ドリンクつき



図書館だより 2019年第2号

2019年8月20日発行

名寄市立大学図書館運営委員会

名寄市立大学図書館

〒096-8641

名寄市西4条北8丁目1番地

